



■2014年2月のマンスリーNEWS 第115号

■コラム

■2月のアークル



皆さんいかがお過ごしでしょうか。年が明け、早くも1ヶ月が過ぎようとしています。月日の流れの早さに敏感になるのは年のせいでしょうか。

さて年始早々から、やっちゃいました！会社の駐車場の小さな窪みに足首をとられ、足首を思いぎり捻ってしまいました。あっという間に腫れ上がり、もしかしたら骨折？とあせりましたが、捻挫ですみました。しかし病院に行くとギプスをはめられ腫れは引くまでは安静にしろということに。松葉杖にはなりませんでしたが、足がダメというのは本当に不自由です。普段、スポーツジムで肥満防止のための運動をしている私にとって、その運動も出来ないのはとてもつらいものです。よく考えてみると、肥満防止の目的のためにやっている運動ですが、けっこうストレス発散になっていることに気づきました。

そんな今年のスタートになってしまった私ですが、年の初めの悪い事があり、その分後は良いことが起きるとポジティブシンキングで行こうなんて思っています。

さてこのコラムを書いているのは2014年1月末ですが、消費税増税の飲料メーカーの希望小売価格は決まっておられません。「一部の商品を10円値上げすることによって、3%増税分を賄う」というのは決まっていますが、現在の注目点はどの商品が据え置かれどの商品が値上げされるのかということです。この内容はとても重要で、例えば飲料メーカーによってカテゴリーごとの売上が違います。ダイドーのようにコーヒーが強いメーカーだとすると、そのコーヒーが据え置き商品となると3%を賄う金額が増えることになってしまい、とても厳しくなります。

今の現状、コーヒーカテゴリーはコンビニのカウンターコーヒーの出現でとても厳しい市場になっています。飲料メーカーとしては190ml缶のコーヒーをなかなか値上げしにくい状況にあるのは間違いありません。しかし流通量の多い缶コーヒーを値上げできれば消費税によるダメージも少なく済みます。

しかしながら、今回の消費税増税問題に飲料各社が他社に対して疑心暗鬼になっているということがよくわかります。4/1から消費税増税が施行されるのはわかっているながら、なかなか発表が出来ない。また我々のような、末端流通ではお客様への対応をしなければならず、決定は早ければ早いほど対応ができるのです。決定の遅延は本当に勘弁して欲しいことなのです。

このような決定は実はコカコーラ次第というのが業界の常識なのですが、今までのようにコカコーラがダントツのシェアをもっていればこれほど遅延することもなかったと思われます。しかし近年のサントリーの勢いはものすごいものがあります。近年はサントリーがコカコーラのシェアを脅かすまで存在になりました。このサントリーの台頭が今回のコカコーラの決定を遅らせる要因の一つであることは間違いのないでしょう。



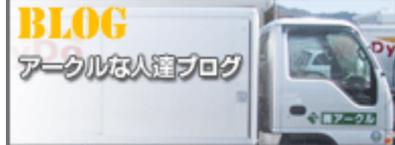
サントリーとコカコーラの大きな違いは何でしょう？それは直販体制を引いているか否かです。コカコーラは基本的に直販体制を引いています。直販体制はメーカーから消費者が直なので、価格調整がしやすいメリットがあります。サントリーは全て流通を通しますので、価格調整が難しくなります。そういう意味では、サントリーのほうが今回の消費税増税は価格上げたいと思っているのではないのでしょうか。

価格上げというのは他社メーカーとの競争を意識しているというものもありますが、やはり売れ行き鈍化を業界としては心配しています。しかし今の飲料の価格は私は安すぎると思っています。先進国の中でこれだけ飲料を安く売っているのは日本だけではないでしょうか。ミネラルウォーターのペットを100円で売るなんて、ヨーロッパでは考えられません。これこそ、デフレの象徴みたいなもので、我々飲料業界はこの消費税アップを機に価格を適正にすべきだと思うのです。

また飲料メーカーの数も多すぎるかもしれません。今後は昨年のポッカサッポロのように、飲料メーカー同士の再編も必要な時期にさしかかっているのかもしれない。

そんな中先月、コンビニで驚きの商品が並びました。セブン×サントリーの缶コーヒー、ワールドセブンブレンド(100円)です。この商品は飲料業界ではある意味、サントリーがタブーを犯したという感があります。

実はコンビニではカウンターコーヒーの出現によって、缶コーヒーの棚割りが狭くなりつつあります。つまり缶コーヒーは競争が激しくなっているのです。そんな状況で、このWブランドの商品が幅を取るによって、はじき出されるメーカーが出てきます。飲料メーカーはこんな状態だと、コンビニの販売は期待できないと考え、やはり自社商品だけ販売できる自販機に力を入れ



ようなんで考えるかもしれません。すると今度は自販機業界の競争がますます激しくなります。

今後は缶コーヒーもこのWブランドの商品が出てくるでしょう。ただしこれをやりすぎると、飲料メーカーは自分で自分の首を締めることになるのでバランスを見ながらという事になるのだと思います。

先月期の当社の状況は、年明けから1台あたりの売上が少し落ちてきている状況です。商品もホット商材が終わり、春の新商品の発売を待っている時期になります。2月・3月は1年で一番売上が低迷する時期になります。この時期に春夏の準備をしっかり出来るかが、重要ポイントとなります。

今年は4月から消費税で自販機の価格調整やシステムの調整なので、作業量が増えることが予想されます。そして自販機営業、切り替えとすさまじい春を迎えそうな気配の当社です。

そんな当社ですが、市場変化に負けずに食らい着いていきます。皆様よろしくお願いします。

■コラム

■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5		JT売れ筋ベスト5	
1位	新ダイドーブレンドコーヒー	1位	ボスレインボーマウンテン	1位	ルーツインパクト微糖
2位	新ブレンド微糖	2位	ボス贅沢微糖	2位	クリミーカフェHOT
3位	Nデミタスコーヒー	3位	ボスカフェオレ	3位	アロマステージ&コーヒー
4位	細缶Mコーヒー	4位	ボス無糖ブラック	4位	アロマステージ&ミルク
5位	BC葉の茶 朝摘み	5位	ホット伊右衛門275ボトル缶	5位	爽快ビタミン500缶

■コラム

■今年はどうなるのでしょうか？

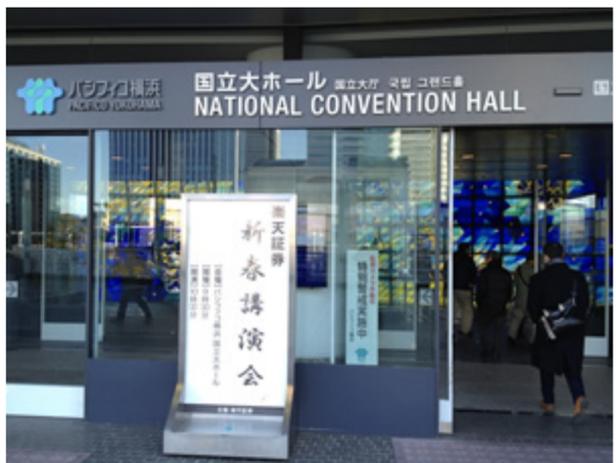
新春講演会 楽天証券

今年も行ってきました。昨年の1月・8月に続きこれで3回目となります。

毎回の講演者として、竹中平蔵氏と堀古キャピタルの堀古英司氏（モーニングサテライトでNYから出演している）が必ず話してくれます。今後を占う上ではこの2人の話は聞き逃せません。ということで・・・今回はこの2人の話しを紹介したいと思います。ちなみにこのほかにも、キャスターの辛坊治郎氏や寺島実郎氏などの講演があり、1日びっちらの講演会でした。

それでは早速、竹中平蔵氏の話しを紹介します。

「世界から見た日本経済、今後の行方」と銘打った講演でしたが、毎回非常にわかりやすい内容で、まるで日本の行く先を指し示しているかのようにさえ思えてきます。



竹中氏は毎年の新春講演ではどう言っているのでしょうか？ちなみに昨年は「**今年に変化に年になる**」と言っていました。一昨年は同様に「**変化の年になる**」と言っています。そして今年は「**大きく変化する（しなければならぬ）年になる**」ということです。「まず皆さんに聞きたいことがあります」「今年のアベノミクスはさらに進展して行くと思いますか。それともしぼんでいくと思いますか、どちらでしょう？」このように冒頭、来場者に問いかけます。すると来場者の反応は5：5に分かれました。「珍しい、横浜の人達は半々でしたね。通常はしぼんでいくと答える人が7～8割いるんですけどね」と。この質問は安倍政権が長期政権になるか否かの質問を意味します。

まず、世界経済から見ていきましょう。世界経済は今年はゆるやかに成長します。IMFは約3%ぐらいの成長を見込んでいるようです。もちろん国によって違いますが、大きな流れとしては先進工業国が上がり、新興国にかげりが見えてくるといった感じになるそうです。アメリカは今年は良い年になるようです。不動産価格も上がりBSも良くなってきているようです。ヨーロッパは昨年の0～0.4%から1%成長ぐらいになると予想されています。日本はIMFの予測で消費税問題などで1%ぐらいの予想となっています。新興国は国によってまだら模様で、中国は昨年7.5%、今年は微減といったところで大きな問題にはならないということです。アセアン諸国がやや懸念されるといったところでしょう。大きな注目としては、やはりアメリカで、良いと言っても良すぎてもダメなのです。予想よりも良くなると、FRBはどうしても金融引き締めをやらなければならないので、景気後退懸念がでてきます。ゆるやかな成長が一番ということです。また現在、アメリカは量的緩和の出口を捜している状況ですが、この引き締めを強くやりすぎると景気減速となり新興国経済に影響を与えてしまいます。現状では金融政策は決定されたが、財政政策はまだこれからといった状態だそうです。



さて注目の日本経済はどうでしょうか？昨年1年間で日本の株価は約57%の上昇をしました。世界的にもトップの伸び率です。ちなみに昨年の伸び率1位はドバイ、2位がアルゼンチン、3位がアブダビ、そして4位が日本ということです。先進国と言う意味ではNO1の伸び率ということになります。日本経済の成長率はIMFは1%ぐらいと予想しているようですが、私は消費税問題があっても2%は行くのではと思っています。昨年日本のGDPは約8兆円増えました。この内7割は民需（個人消費）で、残りが公需なのです。これはとても評価に値するものです。ちなみに今年の消費税アップ分はちょうど8兆円吸い上げられる計算だそうです。このうち、5.5兆円を民間に戻す予定で、その予算をこれからの通常国会でやるそうです。

今回の消費税引き上げは、具体的に言うと年収400万円の人で月6千円の負担になるそうです。お父さんのこずかいで考えれば、この6千円はかなりの負担感となります。1〜3月は駆け込み需要があると思われそうですが、私達は何を買ったらいいのでしょうか？それは高いものです。そして値崩れしないものが良いでしょう。

このように、消費税アップは景気後退の大きな要因ですが、これも政府の経済運営次第では乗り切れると私は思っています。

さて政治に目を移しましょう。昨年安倍政権が誕生し、「**3本の矢**」という経済財政政策を打ち出しました。その状況は現在どうなっているでしょう。

まず1本目の矢「**デフレ克服・金融緩和**」これはどうでしょう？デフレというものは最悪です。人々は人口減少を理由にモノの値段下がると思っていました。しかしこれは嘘です。モノの値段が下がるのはお金の供給量が少ないからです。黒田 総裁はお金の供給量を2年で2倍にすると言って、日銀総裁となりました。物価上昇率は2%を目指すということで、これは デフレ克服にはいくらでも資金供給するというコミットなのです。その効果もありじょじょにデフレが克服されてきました。1本目の矢は合格と言ってよいと思います。

さて2本目の矢「**機動的財政政策**」についてです。これについては前半の「当面はお金を使って景気を良くする（公共事業）」はOKです。しかし後半の財政再建についてはまったく手が付けられていない状況です。今のままの使い方をしていくなら消費税を上げてでも財政は絶対にもちません。これは、根本的な問題（社会保障）に手をつけるしかないのです。例えば年金です。年金は保険ですから、年金が不必要な人（富裕層）にも支給されるのはおかしいのです。また支給年齢を上げていく等この問題に手をつけていかななくてはなりません。日本は福祉大国と呼ばれるイギリスより社会保障費が高いのです。しかし若い人への社会保障費はイギリスと比較しても1/4にしかありません。これは間違いなく、若い人が選挙に行かないことに起因しています。

先日、小泉元首相と会って話をしました。基本的に小泉さんが安倍首相を応援しているスタンスですが、「痛みを伴う改革にまだ手がついていない」と指摘していたそうです。安倍政権でいまだ手つかずの大きな3項目は「社会保障」「エネルギー政策（原発）」「地方分権（地方交付税）」です。

3本目の矢「**成長戦略**」についてはどうでしょう？成長戦略には打ち出の小槌はありません。基本的に付加価値を生み出すのは民間企業ですから、仕事をしやすいビジネス環境をいかに規制緩和して作り出していくかがポイントとなります。ちなみにビジネスのしやすい国で2001年は40位、2006年28位、そして現在が47位とかなり低迷しています。常にトップにあるのがシンガポールです。

規制緩和には抵抗勢力があります。特に既得権益をもって強い抵抗勢力があるのを「岩盤規制」と言います。例えば農業や医療です。

農業は実は一般企業が参入できないって事を皆さん知っていましたか？企業が農業に参加するには株主の半分以上が農民でないと農地を購入できないのです。日本の農業が競争力があるのはわかっているのに、世界に農作物がほとんど輸出できていない。もったいないことです。日本の農業従事者の9割以上が49歳以上なのです。これからTTPの問題もあるので農業の規制改革はやるべきです。

医療については、皆さん過去35年新しい医学大学が新設を認められていないのをご存知でしたか？医療関係者が医者が増え競争相手が増えることを嫌っているためです。その結果現在の医師不足を招いているのです。

このように規制はたくさんあります。私の参加している国家戦略諮問会議では国家戦略特区を作ってこれらの規制をなくした区域を作っていこうという事で動き始めてきています。今までのやり方は地方が国に申請してそれを許可するかどうかは国が決めるというやり方をしてきました。国家戦略特区という新しい試みは国、地方、民間で区域会議を作ってミニ独立 政府のように決められる仕組みです。この区域では今までの規制に縛られない区域となるので、これを規制改革の第一歩としていこうとするものなのです。

さてオリンピックが2020年、東京開催が決まりました。日本はこのオリンピックをどのように成長戦略に取り入れていくかというのが重要になります。オリンピックの経済効果は3兆円といわれていますが、本当はそれどころではなく、20兆円以上の効果があると思っています。ちなみに前回の東京オリンピックをきっかけにおしゃれな青山通りが誕生しましたし、セコムやALSOKが出来たのもこのオリンピックがきっかけです。これらの企業はその後の大阪万博で一気に伸びてきました。また冷凍食品が生まれたのもオリンピックがきっかけです。オリンピックというのはライフスタイルを変えるだけの影響力をもっているのです。例えば、このオリンピックを契機に日本中をバリアフリーしようとかなどが出てくるかもしれません。また羽田の国際化、高速鉄道でつなぐなどもあります。また雇用面でも120万人の雇用効果もあるといわれています。雇用は現時点でも足りないといわれており、今後女性、高齢者、外国人などの活用が必要になってくることは間違いありません。

とにかく今後の日本の行く先を良くするのも悪くするのも、安倍首相の政治的リーダーシップにかかっているのは間違いなさそうです。

最後に東京都知事選について一言だけ言うておきたいと思います。都知事選は舛添さんと細川さんの一騎打ちの様相ですが、私達は何に着目すべきかと言うと、脱原発ではありません。脱原発は国で話し合われる事で都知事選で選挙の争点となるものではありません。問題は都知事にしか出来ないことに着目しなければなりません。例えば東京はムダな第3セクターを一番抱えているのです。そこへ天下りしている現実をどうにかしなければなりません。例えば有楽町の交通会館は東京都が持っています。これを民間に出せば3兆円くらいにはなるでしょう。このように重要なこと見れる目を私達は持つ必要があります。



次は堀古英司氏の話になります。

題は「2014年米国経済・株式相場の見通し」です。堀古さんは米国在住のファンドマネージャーで特に米国経済にはとても強く参考になると思います。

堀古さんも昨年話から入っていきます。昨年この場で話したことは「過去5年の円高サイクルは終わり、今後は円安に向っていきます。円高のときは何もしなければ何もなかったけれど、円安の時は何もしなければ資産が減っていきますよ。アクションを起こさないとダメですよ」という事を言いました。

この円安はまだあと2年は続くと思います。まだ始まったばかりです。アメリカの非農業部門の雇用統計は2008年のリーマンショック以来86%取り戻してきていて、近いうちに100%以上取り戻すでしょう。つまり景気が上向いてきているので、今までのような金融緩和の必要性がなくなって来たということになります。最近金融緩和縮小のタイミングを言われていますが、問題はタイミングではなくて終ることが重要なのです。

さて日本ですが黒田日銀は昨年4月から量的緩和を行ってきました。新聞・マスコミ等ではよくやっているという評判ですが、私はまだまだと思っています。日本の期待インフレ率は現在1.2%ですから目標の2%を下回っています。もしアメリカが目標数値を下回っていたら目標に近づくように金利で調整するでしょう。日銀は追加アクションをとっていません。つまり全然緩和量が足りないということです。当面日銀は今の量的緩和を続けなければならなくなるでしょうから、円安はますます進む傾向にあるでしょう。

私達は今持っている資産を守るという点で円以外の運用が不可欠と考えています。

近年メディアの数は増えたのは皆さんもご存知の通りです。新聞・TVに意外に、新しいメディア（YAHOOやFBなど）がものすごい勢いで伸ばしてきています。メディアの特質を考えたとき広告主という存在があります。広告主はたくさんの人にどれだけ見られたかによって価値が決まる競争をしています。人間の心理に「人は良いニュースより悪いニュースに反応する」というものがあります。つまりネガティブな報道はたくさん人が反応するのです。例えば昨年10月「アメリカの国債がデフォルトする」という記事が駆け巡りました。私達専門家から見て絶対にありえないことなのですが、ネガティブなニュースなのでどこも最優先の記事となってしまったのです。なんとNYタイムスも同じような論調で書いたのには驚きました。

その時のCFDの数値（先物の取引の保険みたいなもの、高ければリスク度が高い）はギリシア971、イタリア240、スペイン215、フランス67、日本63、アメリカ42、イギリス36でデフォルトの可能性はありえません。たとえもし、債権の一部がデフォルトしたとしてもアメリカはお金を刷ればいいのですから、大きな問題になるほうがおかしいのです。私は何を言いたいかというと、くれぐれも本質を見る目を失わないようにして欲しいということです。またこんなニュースで円以外のものの投資する気持ちがそがれてしまうのが一番嫌だったからです。

アメリカ経済の過去を少し見てみましょう。

まずこの1年ほどなぜ財政の問題になっているのでしょうか？1995～2000年アメリカは好景気でした。国債発行も50%から30%に下がりあと3～4年で無くなるのではないかとわれていたほどでした。しかし2000年3月にハイテクバブル崩壊、2001年にテロ、2002年にエンロン、ワールドコム不正会計問題、2003年イラク戦争と連続で危機を迎えます。2004～5年は経済が上向きになってきて3%アップしました。しかし2006年に景気後退し2007年金融危機、2008年リーマンショックとこの13年間で“100年に1回の危機”が2回訪れたのです。そういう意味では、この13年間は不幸な時期だったかもしれません。

アメリカはこの13年間で財政で支えるしかなかったのです。それは2001～3年のブッシュ減税を12年まで延長したり、2009～12年オバマ景気対策、2013年給与税減額、富裕層減税などです。つまりこれらはこの13年間の緊急措置だったということです。しかし昨年からその薬を減らして人間本来の回復能力を取り戻してきたというのが今の状況です。金融緩和縮小はアメリカ経済がまともに戻っているという証拠で私達はポジティブに受け取るべきと考えています。昨年の国債デフォルト問題（財政の小さい崖）によって1～1.3%ダウンしましたが、もしその問題が表面化しなければ3.5%の成長だったのです。つまり2014年はその財政出動がなくなるということになります。また成長率は3%以上と見ているので、企業業績は10%以上の成長率と見えています。

アメリカ株価はこの13年からの決別ということで30%以上は上がると見えています。そうすると円安はますます進み、日経平均も2万円は超えてくるでしょう。

そんな中でどんな銘柄に投資をしていけばよいのでしょうか？「安かろう悪かろう」ではいけません。「業績の良い会社を割安で買う」これが鉄則です。たとえば私の組成しているファンドではAIG保険やCIT（ローン大手）、VC（自動車部品）、GMなどを買っています。これらは全て破綻した会社で再生した会社です。一度破綻していれば借金はない上に過去の赤字があるので法人税が優遇されます。悪いイメージが残っているだけで、実際は優良企業なのです。

そういう中での注目銘柄の一つあげておきます。それは「JAL」です。アメリカの航空業界は昨年再編や、需給が良いことから50%株価があがりました。またシェールガス革命でも追い風が吹いています。EVIEITDA指数(*)でみてもデルタ5.34、ユナイテッド4.91、アメリカン4.81、エールフランス4.15、ANA5.01、JAL2.82と株価が割安なことがわかります。また一度破綻しているので、先ほどの会社と似ていると思われます。

***EVIEITDA指数・・・企業価値評価の指標として広く利用されてる。一般的には、EV/EBITDA倍率は6倍から7倍前後が目安とされ、それ以上なら株価は割高、それ以下なら割安と考えられている。**

皆さんいかがだったでしょうか？総じて言えば、今年の日本の景気も強気と見ていいのではないのでしょうか。よく世間では景気が良いと言うけど実感できないという声が聞こえます。しかし、昨年末の夜のタクシー乗り場はまるでバブルの時のようでした。また本屋では高級時計や外車の雑誌が所狭しと並んでいます。景気とはまさに雰囲気であって、目に見えるものではないのかもしれませんが。

円安・円安の合唱もあちらこちらから聞こえてきます。こういうときはお金を動かす勇気が必要なのかもしれません。

さて2014年はどんな年になるのでしょうか？

■コラム

■激ウマB級グルメ 第65弾

バームクーヘン専門店？



最近、小田原ではスイーツ系の新店が続々とオープンしています。

当社近くで、ランドローフ（南足柄の人気パン屋）の2号店、スイートベリー（久野の人気ケーキ店）の2号店と立て続けにオープンしました。そんな中、小さなお店ですが、酒匂に「MARUKO」というバームクーヘン専門店がオープンしました。

早速興味津々で訪ねてみました。

場所はJR鴨宮駅から徒歩10分ぐらいのところにある本当に小さなお店です。

バームクーヘンと言えばやはり「クラブハリエ」（当マンスリー2011.7月号参照）と思う人は多いのではないのでしょうか。専門店を出店したということは、相当自信があるのではということでその実力を拝見してみようと思いながらの訪問になりました。

店内に入るとガラス張りの奥は作業場になっていて、バームクーヘンを作製する様子が一目でわかるようになっていきます。商品もいろいろ種類があるようで、お店の人は一通り試食をさせてくれました。その中で面白いなと思ったのが、「焼きたま」という商品。通常バームクーヘンは一晩寝かせ熟成させることによって生地バターがおちつき、しっとりとしてくる そうなのです。しかし、ご飯やパンは焼きたてがおいしい。バームクーヘンにも焼きたての時にしか味わえないふっくらとしたやわらかい味があるそうなのです。これはバームクーヘンの職人しか味わえないものなのでしょう。しかしこの店主はそれでは勿体ないということで、賞味期限を当日とした、「焼きたまバーム」を販売することにしたそうです。これは当日中に食べるように作られたバームクーヘンなので、通常バームクーヘンのように冷蔵庫で保管して翌日食べても同じ味にはならないそうです。ちょっと残念なのは焼きたて熱々を食したいところなのですが、フォンダン（砂糖衣）をつけるので熱々はいただけないそうです。

またこの店は材料にもこだわりあるようで、たまごは「SAGAMIKKO」と言う相模原の平飼いで育てられた有精卵を使用しているそうです。またバターはあの有名な「カルピスバター」を使用しているそうです。カルピスバターはカルピスを作る工程でできる脂肪分から製造されるバターで、カルピス30数本から450gのバターしか出来ないの「幻のバター」と呼ばれているそうです。

ちなみにバームクーヘンを美味しく食べるには、温度が重要だそうです。

- ①保存は冷蔵庫
- ②冷蔵庫から出して30分～1時間が食べごろ
- ③寒い日は電子レンジで温めすぎないように（周りの砂糖衣がとけてしまう）



バームクーヘンの味の種類はプレーン、チョコ、コーヒー、紅茶（期間限定）があり今回は初めてということでプレーンタイプの大きなものと、すぐ食べる用に「焼きたま」を購入しました。

早速その場で「焼きたま」をパクリと・・・今まで食べたバームクーヘンとはまるで違うのに驚きです。バームクーヘンはどちらかというと中身が詰まってしっかりしているというイメージなのですが、これはふわっとしていてとても軽い感じです。またとても柔らかく、新感覚です。

プレーンの大きなものは翌朝、朝食としていただきました。こちらは昨日の「焼きたま」とは違い、正統派のバームクーヘンと言う感じです。濃い味で、朝から結構お腹にたまるといった感じです。

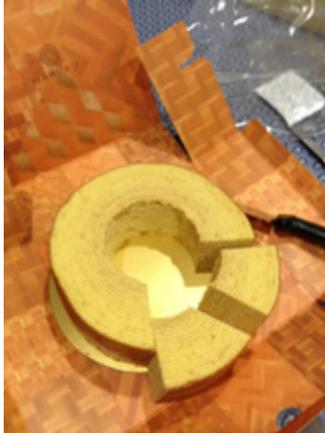
さてクラブハリエと比べてみると、私個人的な感想は以下の通りです。

- ・砂糖衣がクラブハリエのほうがしっかりついている
 - ・クラブハリエのほうが柔らかい
 - ・MARUKOのほうがフルーティな感じがする
- 価格はほぼ同じくらいです。



それにしても、スイーツの業界もより細分化され、スペシャライズになってきたなつくづく思います。昔はケーキ屋と言うカテゴリーでひとくくりですませていたのに、まさかバームクーヘン専門店とは・・・

お近くの皆さん、興味があれば行かれてみては！



店名 バームクーヘン MARUKO

住所 小田原市酒匂1-9-15

電話 0465-42-9655

営業時間 10:00~18:00 水曜日定休

■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

ただいまブログは6名が更新中です。

- ・小田原営業所所長日記
- ・チーフの日記
- ・販促課マネージャーの日記
- ・海老名の所長ブログ
- ・開発道
- ・海老名アシスタントチーフ日記



2014アークル新年会

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願いします。

■2013年度のマンスリーNEWS

➡	2014.01	アークル マンスリーNEWS
-------------------	---------	----------------

■マンスリーNEWSアーカイブ

➡	最新	マンスリーNEWSトップページ
➡	2013年度	2013年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2012年度	2012年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2011年度	2011年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2010年度	2010年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2009年度	2009年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2008年度	2008年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2007年度	2007年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2006年度	2006年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2005年度	2005年のマンスリーNEWSアーカイブ

→	2004年度	2004年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	番外編	マンスリーレポート番外編

© Copyright 2008 ARUCRU co.,ltd All rights reserved.

